

けんぱくものしりシート

しょう
衝

かく
角

つき
付

かぶと
冑



これは何だろう？
ちやいろ まる
茶色くって、丸く
って…。少しデコ
ボコしているよ。



それにてっぺんはとんがっているわ。おなべかしら？ それとも帽子？



かぶと たたか
冑って戦
いの時に頭
にかぶる冑
のこと？



しょうかくつきかぶと ふくせい げん しりょう もりおかし いせき まな かんぞう
衝角付冑 [複製] (原資料: 盛岡市遺跡の学び館蔵)



ケンくん、ハクちゃん。こんにちは！ これは鉄でできた冑なんですよ。7世紀ごろ(古墳時代後期)の古墳(土を盛り上げて造ったお墓)の中から見つかりました。

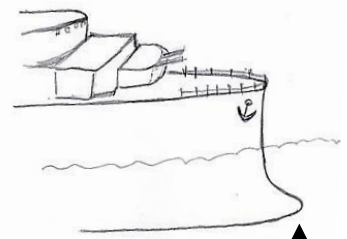
そうですよ。この冑は敵のこうげきをさけるために、正面のところとんがってつき出た形をしています。この形が軍かんの前の水に沈んでいる部分、衝角(※)に似ていることから、衝角付冑と呼ばれています。



しょうかくつきかぶと にほん う こふんじだい かぶと
衝角付冑は、日本で生まれた古墳時代の冑の1つで、4世紀末(古墳時代中期)~7世紀(古墳時代後期)にかけて“よろい”とともに使われました。しょうかくつきかぶと てつ かわ つか つく てつ かぶと かな
衝角付冑は鉄や革を使って作られ、鉄の冑は金づちでたたいてのばした鉄の板を、何枚もつなぎ合わせてつくられています。てつばん かたち がつな ぎか と かた
鉄板の形やつなぎ方、留め方などによって、いろいろな衝角付冑があります。今回紹介している冑は、かぶと よこなが てつばん だん
横長の鉄板を4段につなぎ、てっぺんからまえにかけて別の鉄板で押さえ、各板を鉄のびょう(画びょうのような金具)で留めています。この冑を、横はぎ板びょう留衝角付冑といいます。

※ しょうかく 衝角

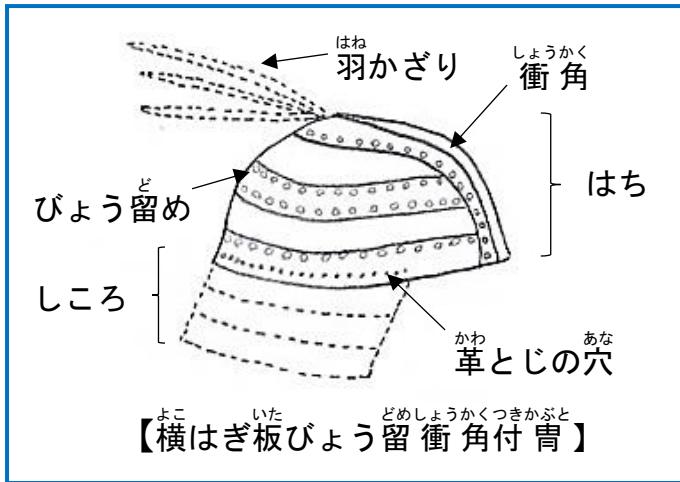
たたか ととき てき ふね たい
戦いの時に、敵の船に体あたりして穴をあけ、船をしずめるためのものです。



しょうかく 衝角



ほんとう よこ なが てつ いた
 本当だ！横に長い鉄の板がぐるっとめぐらされているね。
 よくみると、びょうもたくさん並んでいるのがわかるよ。



かぶと あたま い ぶ ぶん
 冑の頭を入れる部分を「はち」とい
 うのですが、そのてっぺんには、小さ
 な穴が2つあいています。ここに金具
 をつけて鳥の羽などをかざりました。
 また、「はち」の一番下の鉄板にも小
 さな穴がたくさんあいています。ここ
 に首の回りを守るための「しろころ」を
 かわ革でとじつけていました。



しょうかくつুকかぶと み こふん
 衝角付冑の見つかった古墳はどこにあるの？

こふん
 どんな古墳？



しょうかくつুকかぶと み うえだ えぞ もり こふんぐん はくぶつかん みなみ やく ところ
 衝角付冑の見つかった上田蝦夷森古墳群は、博物館から南へ約1.5kmの所にある

ホームセンター DCM 黒石野店の駐車場近くにあります。

古墳はすでに盛り上げた土がけずり取られていましたが、
 溝をめぐらせた直径約4.8mの小型の円墳（円い形の古
 墳）です。内部には亡くなった人を木のひつぎに入れて
 埋葬した長方形の穴が掘られ、衝角付冑や、耳かざり、
 刀子（小刀）、コハク（ものしりシート地質No.5参照）、
 土師器の甕（土器）が納められていました。

東北地方で古墳時代の冑は、数例しか見つかっていま

せんし、完全な形のもの、この冑1つだけです。また、

古墳から見つかった冑としては、日本で最北の例となり

ます。この古墳はこの地域の有力者のお墓で、近くにはまだ古墳が残っていると考
 えられています。しかし、周辺からは同じ時代の集落跡は、まだ見つかっていませ
 ん。まだまだわからないことも多く、これからの研究が楽しみです。



参考 『上田蝦夷森古墳群・太田蝦夷森古墳群 発掘調査報告書』盛岡市教育委員会 1997年/『盛岡市遺跡の学び館第5回
 企画展「黄泉への入口～古代蝦夷首長の墓～」図録』盛岡市遺跡の学び館 2006年 他

「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時
 のものです。最新情報ではございませんので、
 あらかじめご了承ください。
 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆し
 ております。



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<https://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>